

- 1 主題名 相手と理解し合う B- (10) 相互理解・寛容
- 2 教材名 合い言葉は「話せばわかる！」
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目B- (10) は「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」をねらいとしている。この内容項目は、第5学年及び第6学年のB- (11)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」に発展していく。

相互理解とは、互いに相手の意見や思惑がどのようなものであるのかを知り、お互いの立場を理解し合うことである。人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い、理解し、高め合う関係を築くことが大切である。

この時期の児童は、考え方や感じ方など、自他の違いへの理解力が高まるが、その違いを受け入れられずに友達と感情的な対立が生じることが多い時期である。多様な考え方や意見を理解し、自分もさらに相手からの理解が得られるように思いを伝えることの大切さに気付くことができるようにしたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態 (*名)

(平成*年*月*日実施)

1. ほかの人と意見が合わずにけんかになったことはありますか？	はい *人	いいえ *人
2. ほかの人と意見が合わないとき、あなたはどのように思いますか？		
・いやな気持ちになる。・・・*人	・どうして意見が合わないのだろうと考える。・・・*人	
・どうしよう、と思う。・・・*人	・相手の意見に従う。・・・*人	
・違う意見を提示する。・・・*人	・何も思わない。無回答	・・・*人
3. ほかの人と意見や考えが合わなかったとき、どうしますか？		
・話し合う。・・・*人	・相手の意見に賛成する。・・・*人	
・どうすればよいか分からない。・・・*人		

実態調査の結果を見ると、本学級の児童は、ほかの人と意見や考えが合わなかったときには、みんなで話し合いをして解決できるようにする、という意識をもっていることが分かった。しかし、ほかの人と意見が合わないときがあると相手とけんかになったことがある児童が過半数だったことから、意見が合わなくなると、落ち着いて話し合うことはできていないと思われる。また、相手の意見にそのまま合わせたり、意見が合わないときにどうしたらよいか分からなかったりする児童も見られた。これは、友達関係が崩れることを恐れて、自分の意見を言わずに取り下げてしまったり、話し合うことで、お互いの意見や考えを理解し、新たな考えを見出したりすることの良さを実感することができていないからだと考えられる。

これらのことから、話し合うことでお互いの思いや立場を理解し合うことのよさを学ぶ必要があると考えられる。

(3) 教材について

本教材は、外国からの転入生であるトムの掃除に対する取組について話し合うことを通して、「ぼく」をはじめとするクラスの皆とトムが、お互いの思いや立場を理解し合い、クラスの結束を深めていく話である。掃除をしないトムに不満を持ち、率直に問いただす「ぼく」と、自分のいた学校には掃除がなく、どうして掃除をしなくてはいけないのか分からないトムが、「話せばわかる！」を合言葉に、互いの意見を言い合い、立場を理解しながら、新たな解決策を見出していく部分が重要となる。

そこで、「ぼく」のとった行動について理由や動機を、自分に置き換えて考え、「ぼく」と同じ対応をするか、「ぼく」と違う対応をするかのどちらにするかを議論させることで、「ぼく」の心情に迫るようにする。そして、トムの思いや状況を分かったうえで、「ぼく」に対してアドバイスをすることで、相手の思いや立場があるということを理解できるようにしたい。また、自分なりの考えを書いたり、これからどうしたいかを考えたりすることで、意見の相違があったときに、お互いに聞き合い、歩み寄って、よりよい方法を考えていこうとする気持ちを高めていきたい。

4 本時の活動

(1) ねらい

相手と互いに理解し合って、自分と違う意見も大切にできる心情を理解することができる。

(2) 準備

登場人物のイラスト（掲示用）、ワークシート、児童のネームカード、電子黒板、パソコン

(3) 展開

主な活動・発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◎評価
<p>1 価値への導入を図る。 ○アンケートの結果を見てどう思っただろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>分かり合おうとするためにはどうすればよいただろうか。</p> </div> <p>2 教材「合言葉は『話せばわかる!』」を読んで話し合う。 ○掃除をしないトムに対してとった「ぼく」の行動についてどう思いますか。</p> <p>◎話し合いのテーマ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分が「ぼく」だったら、どうする？ ①「ぼく」と同じ方法をする。 ②「ぼく」と違う方法をする。</p> </div> <p>○どうすればよかったのか、「ぼく」にアドバイスをしてあげましょう。</p> <p>3 自分の生活を振り返り、話し合う。 (1) 今までの自分はどのように行動したかを振り返る。</p> <p>(2) 自分と違う意見に出会ったらどうするかをワークシートに書く。</p> <p>(3) 自分の考えを発表する。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と何をして遊ぶか、意見が合わないことがあった。 ・兄弟で意見が合わなくてけんかしたことがある。 ・掃除をしていないのだから、「ぼく」と同じように注意する。 ・この言い方はよくない。 ・掃除しない理由を聞けばよい。 ①の考え <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてそうじをしないんだ。」 ・「やらなきゃだめだよ。」 ②の考え <ul style="list-style-type: none"> ・「トムにも意見があるかもしれないよ。」 ・「そんなに言ったらトムは悲しくなるよ」 ・「日本では、皆で掃除をするのが習慣なんだよ。」 ・「最初にトムの意見を聞いてあげればよかったね。」 ・話し合うことで、問題が解決できたことがあった。 ・話し合っても解決できず、先生に助けてもらったことがある。 ・一方的に言ってしまい、相手にいやな気持ちにさせてしまったことがある。 ・自分の意見を伝えることも、相手の意見を聞くこともどちらも大事だと思う。 ・意見が違うときは、しっかりと話し合って、解決できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の違いについてのアンケート結果を電子黒板で提示して話し合うことで、本時への意識を高める。 ・個人名を出して責めることがないように注意する。 ・話し合いのテーマについて、自分の考えをまとめるために、思考ツール「なぜ・なにシート」を活用する。そして、自分の考えのもととなる理由を明確にするとともに、論理的思考力の育成を図る。 ・ネームカードを活用し、自分の考えやその変化を可視化することで、考えの深まりを感じ取らせたい。 ・考えが変わった児童には、ネームカードを移動させてもよいことを伝える。 ・資料の続きを範読し、トムの考えを理解した上でアドバイスを書けるようにする。 ・自分の経験に置き換えて、振り返ることで、現実の自分に目を向けさせるようにする。 ・失敗した例があれば取り上げて、話し合いの仕方によっては、解決できないこともあることを理解させたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><目標を達成した児童の姿> ◎ 相手と互いに理解し合って、自分と違う意見も大切にしようとする記述をしている。 (発表・ワークシート)</p> </div>